

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第15回：2024年 1月31日（水） 休講扱い 遠隔・オンライン実施  
「戦後日本政治」

-----  
-----  
[事務連絡：今後の講義日程]

2月 7日（水）夕方： レポート型試験・試験問題出題WEB掲示

2月 8日（水）21時：答案提出締切：1日間

2月12日（月）21時：遅延の場合・第二次答案提出締切：5日間  
-----  
-----

[告知：試験の実施形式について ★重要]

後期の成績評価についてですが、ガイダンスでも説明したように「レポート試験」の形式で行います。文献を調べる形式でのレポートではなく、論述形式の試験問題を試験会場ではなく自宅で解答してレポート試験としてオンラインで提出するというものです。学生の皆さんにとっては試験会場での試験よりは楽になるものと思います。事前に周知期間を十分にとります。詳細については後日説明します。

（出題されてから勉強しなおすといったことでは対応しきれない可能性があるので事前に試験勉強はしておきましょうという点では試験勉強はそのまま重要です。）

試験： 出題 試験会場（60分間）での解答・提出

レポート形式の持ち帰り試験：

出題 自宅で解答（24時間以内の提出など） オンラインで提出  
遅延提出の場合などは5日間・120時間以内など。評価は劣後する。  
-----  
-----

<時事問題・コラム>

-----  
（前回の復習）◎利益団体の意義。政党だけでは不足。議会制民主主義の担い手。

◎日本の利益団体。意見をまとめて政党や政府に希望を伝える。組織票や政治献金。

◎若者の意向が政治に反映されない理由も・・・意見の集約、票や資金の集約がない。  
-----  
-----

○サンフランシスコ講和条約（1951年9月8日署名・翌52年4月28日発効）

占領統治の終了。独立の回復。同じ日に日米安全保障条約（旧安保条約）も調印。  
○講和の成立で日本の政治状況は激変。日本は独立したのだからGHQが決めた公職追放は効力を失う。鳩山一郎は1951年の追放解除で政界に復帰する。岸信介も戦争経済運営の中心人物としてA級戦犯の容疑はあったが不起訴。

→鳩山も岸も、一度は吉田の自由党に参加するがその後敵対し、離脱。

○〔自由党・民主党・社会党〕の三大政党の状況。→鳩山や岸は民主党系と組む。  
〔日本民主党〕1954年11月成立 鳩山総裁・岸幹事長。

○吉田の「ワンマン」（＝独裁者）への党内からの不満。更に造船疑獄。仕方なく吉田は引退。→ 鳩山一郎内閣の成立。鳩山内閣の方針は「対米自主」。  
アメリカべったりなのは良くない。アメリカ以外との関係も改善しようとする。  
日ソ関係の改善に向かう。「日ソ共同宣言」1956年10月  
・同時に鳩山は「再軍備」を主張。（「非武装」「軽武装」ではなく「重武装」）  
→考えてみれば当たり前だが「対米自主」と「再軍備」はセット。

★：〔日本政治：音源④D〕

〔社会党再統一・保守合同〕→〔55年体制の成立〕

○保守中道の側も合同すべきとする主張が出てくる。これまで対立してきたので吉田茂への反発はあるが、吉田が引退した後の緒方にはそこまで反発はなく話し合える。  
〔自由－民主－社会〕－共産  
保守合同 ↓  
〔自由民主党－日本社会党〕－共産党

☆それまでの三大政党の状況が整理されたことで〔自由民主党－日本社会党〕という「55年体制」が成立することになった。この1955年に成立した政党体制が1993年まで38年間続くことになった。米ソ冷戦という国際環境にも対応したもの。

○鳩山の後継には岸が有力視されたが、自民党で初めての本格的な総裁選挙で石橋湛山に逆転負け。ただ僅差での敗北であったために、石橋湛山が首相就任直後に病气悪化で退陣すると岸が首相の座を受け継ぐ。その岸内閣で起こったのが、

<岸信介内閣（1957年2月－1960年7月）>

〔60年安保〕〔安保闘争〕・・・大規模な大衆運動。国会を包囲したデモなど。

○60年の安保改定に際しては大規模な反対運動が起こる。国会包囲。  
○安保条約は成立したが大きな混乱を起こした。岸内閣は責任を取って辞職。  
・学生運動にとっては、内閣を学生などの大衆運動が倒した成功体験となる。  
～～その後の大学紛争の激化の一因に。しかし70年安保では60年安保ほどには

反対運動は盛り上がりず。70年安保の停滞で左派・学生運動には挫折感  
→大衆運動から分かれて暴力化・過激化する集団も出現し始める。あさま山荘事件・  
日本赤軍・ハイジャック・爆弾テロ事件などで国民の支持を失う。  
(一般人は当初は学生運動を温かい目で見えていたが、暴力化により嫌悪感。)

- 「60年安保・安保闘争」についての最終的な評価は難しい。  
確かに反安保の運動は盛り上がり、国民的な運動となった。それによって  
岸内閣は退陣した。左派の社会党や共産党にとっては大成功。成功体験。  
→だが、選挙になると自民党が勝つ。その間にギャップがある。
- 社会党・共産党・学生運動などは国会でのデモなどにのめり込む。  
ある種の自己満足に陥ってしまった。「安保と9条だけ」の党に。  
→安保と9条にこだわっていてどうやって日本外交を担当するのか？
- 結果的に政権獲得は遠のき、自己満足の世界に。野党として文句ばかり。  
(理想通りにならない→現実の方が間違っている→現実逃避)

[池田内閣の成立][1960年体制]

- 安保改定を最後に岸は辞任せざるを得なくなった。総裁選で後任は池田勇人に。  
岸から池田への変化は戦後日本政治にとってとても大きな変化となった。
  - ・岸首相辞任の後に首相になったのが池田勇人。対立を避ける「低姿勢」
  - ・池田は経済重視。「所得倍增計画」。高度経済成長を実現。
- ・争点が変わっていった。「政治的争点」から「経済的争点」への変化。  
それまでの安保や憲法といった対立の大きな争点を避ける。  
→経済を争点にする。政治的争点には立ち入らない。  
(岸内閣の失敗を踏まえての路線変更)

★:[日本政治:音源⑤E]

- 池田勇人は所得倍增・高度成長に成功する。1961年から10年でGNP(国民総生産)を13兆円から2倍にする計画。予想以上の成功で、6~7年で達成。
- ※ 自民党一党優位体制が成立。自民党による長期政権。
- 野党は憲法9条を神聖視。教条主義的(頑固になって柔軟な思考ができなくなる。)  
「憲法9条で日本が平和」~~日本は特別な国だという思い込み。錯覚。  
~~一種の選民思想。「日本は神国」というのと大差ない。  
(日本は特別な国、だから戦争に勝つ=だから平和)

-----  
○与野党対決に国民の関心は集まらなくなる。自民党の党内派閥抗争の方が面白い。

「三角大福中」(さんかく・だいふくちゅう)と言われた派閥領袖

田中角栄・三木武夫・福田赳夫・大平正芳・中曽根康弘

五大派閥（有力なのは田中・大平・福田。それぞれ佐藤・池田・岸がルーツ。）

吉田 →佐藤派 →田中派  
→池田派 →大平派  
岸派 岸派 →福田派  
党人系（鳩山系） →中曽根派  
党人旧民主系 →三木派

○野党は？ 教条主義的傾向が強まる。（現実を無視して「正しさ」を追究する。）

○野党にとっての問題 1. 外交・安全保障 2. 内政（革命・階級）

#### 1. 外交・安全保障 「安保と9条」

・しかし自衛隊はどうするの？在日米軍はどうするの？ 現実逃避。

→「外交と安全保障」で現実逃避をしている党が政権の座に就くのは危険。

（プランとして「非武装中立」「在日米軍撤退」を主張することはできるが

国民は別にそれを望んではいない。社会党議員自身も無理だと感じる。）

→野党でいることに安住。「外交」「安全保障」についての責任を持ち、与党になろうとする努力を放棄。無理にまとめようすると党内が大混乱となる。

#### 2. 内政（革命・階級）

・社会党や共産党は、本来は社会主義・共産主義を目指している。（＝革命）

・武力による革命で資本家階級（金持ち）をやっつけて労働者階級（貧しい人々）の国に変えていこうとする。

→でも高度成長によって人々の生活は豊かになった。「労働者階級」という階級を意識する人は減り、中流に属すると考える人が増える。彼らは別に革命を望んではいない。（ずっと労働者として働くのであれば労働者階級としての意識が固まる。だが戦後日本では社内で昇進できる。平社員が昇進して課長・部長となると社員を雇う側の管理職の立場になる。更に役員・取締役などになると経営者の一員になる。内部昇格をすることで、社員は労働者にも経営者にもなる。）

「階級重視」←→「一般国民重視」

-----  
-----

#### 5 5 年体制の下での政治構図

〔自民 VS 社会〕 自民（保守）～公明・民社（中道）～社会・共産（革新）

自民党の一党優位体制。それが38年間で崩れる。

自民党から小沢一郎などが離党 野党8党で細川政権成立（1993年）。

社会党とは違う自民党からの離党組が出現したことで、社会党の陥っていた状況から抜け出した新しい野党の出現（反対ばかりではない、政権交代を狙う野党の出現）。

〔自民 VS 新進〕

- ・途中には反小沢でまとまった「自社さ政権」（自民・社会・さきがけ）も。
- ・途中で民主党が結成される（鳩山・菅）。与党でも野党でもない。
- ・しかし小沢一郎の強引な手法で内部対立→分裂。結果的に分裂した集団を民主党が吸収合併していくことになり急成長。

〔自民 VS 民主〕 ・ ・ 鳩山・菅・小沢の体制で政権交代。

- ・しかし民主党政権は失敗。小沢氏を巡り再び内部対立。自民党に敗れ下野。
- ・その後現在まで第二次安倍内閣による長期政権に。

以上：〔日本政治：音源⑤E〕

-----

-----

〔最後に簡単に全体のまとめ〕

◎後期の「政治学B」では、権力・議会・内閣・官僚制・選挙・政党・利益団体、など。具体的なニュースや政治問題の背景知識として重要な事柄を多数含んだ内容について学習してきた。

◎議会制民主主義（自由主義＋民主主義）の考え方について比較的長く扱った。決定するだけなら議会なんてものは必要がない。議会の存在意義は決定ではなく、審議をしっかりとやるのが国民の利益になると考えられているからである。その祭に、具体論として法律ができる背景は？ 廃案に持ち込むには？ なども扱った。

◎「弱かった内閣や首相」から近年は強くなってきている。大統領制との比較の視点も示し、行政のもう一方の側面である官僚制についてもその長所と短所（猟官制についても）を扱い、官僚にしっかり働いてもらうにはどうすれば良いのか、という官僚制の硬直化を防ごうとする近年の試みも紹介した。

◎選挙・政党について、棄権の意義や無党派層の意義を中心に扱い、人々がどのように考えて投票しているのか、基本的な考え方を紹介し、無党派層とは真逆の存在とも言える、選挙を左右する固定票の存在を利益団体の点から扱った。最後に現代日本政治について、憲法9条や安保、55年体制や戦後日本外交の構図などを扱った。

この講義は政治学の基礎的内容を扱ってきましたが、所々内容的に高度な問題も扱って紹介してきました。結果的に人文社会系の他科目も含めた内容にも繋がる所があるかと思えます。また皆さん各自の専門分野での能力の発揮にも関連づけられれば幸いです。

今後の皆さんの御多幸・御健闘を祈っております。

([jiyone@komazawa-u.ac.jp](mailto:jiyone@komazawa-u.ac.jp))

---

---

---

### <質問カード・コメントカードへの応答>

Q「憲法 9 条改正案の提出に至ってないのは

- ・両院 2/3 以上の議席確保という高いノルマ
- ・軍事的な態度の変更における他国への/他国からの影響のリスク
- ・↑を鑑みた上で内容の詳細をまとめる必要性
- ・国内世論における反発のリスクや国民投票が通るかの不安

など色々な理由が考えられるが一番大きい理由は何なのだろうか...?」

A「かつては 3 分の 2 が重いからだと考えられていましたが、小選挙区制導入以後の近年の衆院参院の選挙では与党系や改憲志向の政党の合計で 3 分の 2 を越えることも珍しくはなくなってきました。議席数もありますが、岸内閣が 60 年安保で倒されたように、実績をあげている内閣でも野党の反対で内閣が潰れる可能性があるのです、大仕事となり、内閣にとって負担は大きいということになりそうです。逆に安倍首相などは状況が悪くなると憲法問題をぶちあげて話題を転換させるのが得意であつたりしましたが。」

---

---

---